

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 3月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	0170400881		
法人名	有限会社 ユースフル		
事業所名	グループホーム 星の家		
所在地	札幌市手稲区稲穂 1条7丁目8-18 (電話) 011-688-0107		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年3月26日	評価確定日	平成22年5月9日

【情報提供票より】 (2 2 年 3 月 9 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 7月 25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	16人, 非常勤 3人, 常勤換算 12.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費20,000 円 暖房費(11~3月)14,000円
敷 金	(有) (39,000円) ・ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (3 月 9 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	3 名	要介護 2	6 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	64 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠藤内科医院、星置駅前内科医院、ゆき小児歯科・歯科口腔外科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、開設後約7年を経過しましたが、建物内部は明るく清潔感を維持し、家庭的雰囲気のある共有スペースや暮らしやすい居室に加え、広い事務室やスタッフルームなど、働きやすい施設となっています。職員同士も、上司や同僚と自由に相談し合える関係が、利用者へのケアサービスにも反映され、家族から職員が優しく親切で明るく接してくれると感謝されています。ホームは、利用者が家庭的雰囲気の中で安心して過ごせるよう努め、重度化や終末期についても利用者や家族の希望に応じて柔軟に対応するなど、利用者本位に努めています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で課題の地域との連携強化、会議の回数増加、ホーム便りの発行など積極的に取り組み、同業者との交流や災害対策も、さらなる向上を目指して改善を計画中です。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価表は、管理者から全職員に配付して各自が項目を検討し、これらを管理者がまとめて作成しています。自己評価からの課題は、ミーティングで協議しながらホーム運営の質的向上を目指して改善に取り組んでいます。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、運営状況報告や災害対策への協力要請など意見交換と医療機関の院長を講師にセミナーなども開催し、参加者から好評を頂いています。会議で出されたホームに関する課題等は、ホームの全体会議で協議しながら改善に取り組み、利用者のサービスに反映させるようにしています。
	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見や苦情は、家族来訪時に把握するように努め、来訪が少ない家族には、電話で対応するようにしています。要望等がある時は、申し送り時の伝達や業務日誌に記載し、内容に応じて会議で検討しながら、改善に取り組むように努めています。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、掃除や花壇整備など、町内会行事へ積極的に参加しています。近隣の保育園児の訪問やボランティアによる慰問も多く、町内会総会へ参加してホームへの協力要請を予定するなど、地域との交流を深めるように努力しています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設当初から、独自理念の中に地域に愛され信頼される主旨を盛り込んでいます。この理念に基づき、ホームと周辺住民の方々との交流を大事にしなが、利用者が地域の中でその人らしく暮らせるよう支援しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念は、職員や外来者に分かりやすいよう各フロアやスタッフルームに掲示されています。また、ミーティング等でも理念に基づくケアサービスのあり方を確認しながら、利用者へのサービスに反映させています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入しながら、清掃や花壇整備などの町内会行事へ参加しています。ホーム近くの保育園児やボランティアによる訪問もあり、町内会総会に出席してホーム運営への協力要請を予定するなど、地域との交流を深める努力をしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は、管理者が評価の意義を説明して全職員に配付され、各自が検討した項目を管理者がまとめて作成しています。評価結果は、ミーティングで協議しながら課題解決に取り組んでいます。		

札幌市手稲区 グループホーム星の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の方々や包括支援センター職員の参加を頂いて開催し、報告事項の他に活発な質疑応答がされています。従来は少なかった会議開催数も増やし、今後は2ヵ毎の定期開催を予定しています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、管理者会議等で行政担当者と意見交換を行なっていますが、ホーム運営上の問題点や疑問点を行政窓口を訪れて相談したり、高齢者福祉会館の館長と話し合いの場を持つなど、行政との連携に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時に、利用者の健康状況や暮らしぶりを伝えています。さらに、今まで無かったホーム便りを、利用者の写真を載せながら、3ヵ月毎に発行して家族から喜ばれています。来訪が少ない家族へは、電話で利用者の近況を知らせています。	○	ホーム来訪が多い家族へは、職員から利用者の状況を詳しく話していますが、来訪の少ない家族へは、担当職員が利用者一人ひとりについて、様子を手紙等で伝えることを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームは、意見箱や苦情相談窓口を設置していますが、要望等は主として家族来訪時に職員へ伝えられています。意見や要望がある際には、申し送りや業務日誌に記入して職員に伝え、ミーティングで対応策を協議しながら、サービスに反映させるようにしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等を最少限に抑える努力をしていますが、離職等がある時は、利用者にダメージが発生しないよう引き継ぎ慎重に行なっています。また、家庭の事情で離職し、ホーム近くに居住している元職員の中には、ホームを訪れて利用者と話し合いながら、ダメージを防ぐように努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の全体会議において各種セミナーを随時開催しています。グループホーム協議会や行政主催の各種外部研修へも、運営法人が費用を負担し、出来るだけ参加するように努めています。	○	外部研修で得た知識や資料は、参加者が内部研修で報告しながら、職員全員の共有となることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの管理者会議や研修会で、同業者との情報交換を行っていますが、まだ他グループホームの相互見学など、同業者との交流は十分な状態に至っていません。	○	他グループホームとの相互見学や意見交換、共同による行事開催など、同業者との交流を通じて、ホームの質的レベルアップにつながる取り組みを期待します。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家庭や病院を訪問して利用者の情報を把握し、ホームへも見学に来て頂いて希望者には食事を共にするなど、ホーム生活の雰囲気馴染めるよう工夫しています。ホームに馴染み難い利用者には、職員が利用者と一緒に時間を長く取りながら、徐々に馴染めるように配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の様々な経験や得意分野から家事や菜園作業など、種々の事を教えて頂いています。さらに、ホーム内では、利用者職員が食事関連や掃除などの作業、百人一首などの楽しみごとなどを共にしながら、お互いに支え合う関係を大事にしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりに合わせたケアサービスに徹していますが、思いや意向の把握が困難な場合は、家族からの情報や日常の行動と表情から理解するように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の介護計画は、管理者と計画作成者が家族や医療機関からの情報を参考にし、利用者の思いや意向を確認しながら作成し、ミーティングで介護計画に関する意見交換を行なって職員の共有としています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヵ月毎の担当者会議で利用者のモニタリングやアセスメントによって計画の変更或いは見直しの検討を行なっています。利用者の健康状態等に変化が生じた場合には、協力医療機関とも相談して随時見直しを図り、その都度家族へ説明しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの車両で利用者の病院、買物、美容院、外食などへ送迎しています。家族来訪時には希望によって食事や宿泊も可能です。また、様々なボランティアに来ていただき、利用者を楽しみごとを提供しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでは協力医療機関による内科と歯科の訪問診療を実施していますが、家族や利用者の希望で、かかりつけ医の受診も自由です。通院に家族が付き添えない時は、職員が送迎するなどの支援をしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期については、指針を作成して入居時に説明し、同意書を頂いています。重度化等の状態が発生した際は、家族や医療機関と相談しながら、終末期までの対応を実践し、その方針を職員が共有しています。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者へのケアサービスの際に、言葉かけなど誇りやプライバシーを損ねないように十分配慮しています。個人情報に関する各種記録や報告書等の取り扱いにも注意し、適正に管理されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、思いや意向を把握しながら、日々の身体状況にも配慮して支援しています。		

札幌市手稲区 グループホーム星の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事献立は利用者の希望も取り入れながら作成され、食事準備や後片付けも利用者と職員が共に行なっています。食事中は、利用者と職員と一緒に同じ食事を取り、会話しながら和やかに過ごしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後の時間帯に、利用者の体調等に配慮しながら、週2～3回程度実施しています。入浴を拒む利用者には根気よく説得し、無理な場合は、シャワー浴や清拭を行なって清潔さを保つようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来ること、出来ないことを見極めながら可能な範囲で食事関連、菜園手入れ、掃除などの役割を担って頂いています。ホーム内では各種ゲームや手芸、習字、ボランティアによる歌や踊りなどを楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい時期には、ホーム前にパラソルを立てて日光浴や利用者の希望を聞きながら散歩、買物に出かけています。また、ホーム車両で花見や外食のドライブを行なうなど、出来るだけ外出の機会を確保するように努めています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関は、日中は開閉が自由で夜間帯のみ施錠しています。ユニット入口のドアにも施錠は無く、2階ユニット入口のみ、階段があるためダブルが付いています。玄関の横は事務所スペースのため、利用者の出入りが分かるようになっています。		

札幌市手稲区 グループホーム星の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームは緊急時のマニュアルを整備し、スプリンクラーも設置しました。避難訓練は消防署の協力をいただいて実施しており、夜間想定訓練も5月に実施を計画しています。運営推進会議でも災害訓練への協力要請をしています。	○	避難訓練は、ホームの最重要課題のため、毎年、夜間想定訓練を含めて確実な実施を望みます。また、地域住民の方々による協力体制も必要なため、避難訓練時に周辺住民の方々に参加して頂くことを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の身体状況、好き嫌いを勘案しながら、一人ひとりの食事量や栄養バランスを配慮した食事を提供し、水分摂取量も記録して、適切に水分を取るよう支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは、開設後約7年を経過しましたが、内部全体に明るく清潔感が保たれています。共有スペースも家庭的雰囲気のある居間と食堂、広く明るいトイレなど、居心地良く過ごせる空間となっています。事務所やスタッフルームなどの管理スペースも余裕があり、職員にとって働きやすい職場環境となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はゆったりとした空間が確保され、広いクローゼットもあるため、室内整理がし易くなっています。利用者は、使い慣れた調度品などを自由に持ち込み、ゆったりとした暮らしをしています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。